

芸術科 音楽

音楽とは「音」を「楽」しむと書いてあるように文字通り、本来楽しいものでなければならないのだが、現実にはなかなかそのようにはいかず、小学校から入学してくる子供たちは、音楽嫌いの生徒が多いのが現状である。その原因はいろいろ考えられるところであるが、やはり問題は如何にそういう子供たちを音楽の持つ本来の喜びや楽しさ、輝きや美しさというものに目覚めさせていくかということである。

音楽というものは、知識とか理論的な側面も大切ではあるが、それよりももっと重要なことは、人間の「心」の中に如何に深く浸透していくか、さらに、人間の持つ「愛」、「優しさ」や「思いやり」といったメンタルな部分にどれだけかかわっていくかということではないかと考えられる。それが、従来の音楽教育は、ややもすると、知識や「音学」という方向に偏りがちな面があったのではないだろうか。その辺のギャップが、子供たちの音楽に対する本能的な欲求との間に摩擦を生じているのではないだろうか。本校では、幸い六ヶ年一貫教育という制度の中で、とても大きなスペースで音楽を据えることが可能になり、俯瞰的な音楽というような理解の仕方ができるのである。それが引いては一つの知識よりも何十倍、何百倍もおおきな「感

動」となって子供の「心」の発達に大きな影響を与えることになるのではないだろうか。そういう理想的な音楽教育を目指している。

以上のような観点から、中1は音楽というものを、もう一度根本から考え直し、原点に立ち帰り、初心にかえってスタート・ラインに立つという心構えが大切である。そうすることにより、「なーんだ、音楽ってというのは、こんなに身近なものじゃないか、こんなに簡単に楽しめるじゃないか」という感覚を身につけさせることが重要である。

中2・中3では、中1で学んだ音楽の楽しさや美しさ、素晴らしさをさらに発展させて奥の段階へと自然体で進んでいけるようにすることが目標となる。

高1・高2の「音楽」が、さらに発展して「芸術」となる段階では、「音楽の楽しさ」から一歩進んで高い精神性を目指した「音楽の崇高さ」という次元まで追求していくことがより要求されるのではないだろうか。

さらに高3では、「音楽の奥の深さ」を理解し、「音楽」が人に与える影響、歴史的にみて「音楽」が果たしてきた役割、文化的側面をいろいろな角度から捉えることが大きなポイントとなってくる。

中学音楽の学習内容

	中 1	中 2	中 3
前期	1. オリエンテーション 2. 校歌 3. 輪唱 4. やさしい名曲の鑑賞 5. 日本の伝統音楽	1. リコーダー・アンサンブル 2. 世界の民族音楽 3. 日本の伝統音楽	1. 日本の伝統音楽 2. ビートルズの世界 3. ミュージカルとアニメの音楽
後期	6. クリスマスの音楽 7. 創作（二部形式） 8. 合唱コンクールに向けて	4. 宮沢賢治と音楽 5. 詩と音楽の融合 6. 合唱コンクールに向けて	4. 世界の民謡 5. ベートーヴェンのシンフォニー（第九）について 6. 合唱コンクールに向けて

高校音楽の学習内容

	音楽Ⅰ	音楽Ⅱ	音楽Ⅲ
前期	1. コールユーブンゲン 2. コンコーネ50 3. リート（Ⅰ） 4. ミュージカル 5. 混声四部合唱（初級） 6. J.S.バッハの世界	1. コールユーブンゲン 2. コンコーネ50 3. ロマン派の世界と文化 4. カンツォネッタ 5. リート（Ⅱ）	1. コールユーブンゲン 2. コンコーネ50 3. グレゴリオ聖歌 4. J.S.バッハのパイプ・オルガン 5. リート（Ⅲ）
後期	7. バロックの器楽曲 8. モーツァルトの宗教曲 9. 混声四部合唱（中級）	6. 日本の伝統音楽 7. ベートーヴェンの楽曲アナリーゼ 8. 混声四部合唱（中級）	6. 日本歌曲 7. 混声四部合唱（上級） 8. 印象主義から現・近代音楽まで